

徳山・下松港 貿易概況

平成22年分(速報値)

平成23年2月4日
徳山税関支署

輸出は3年ぶりのプラス 輸入は2年ぶりのプラス

1. 総括

輸出	4, 130億09百万円	(+ 10.1%)
輸入	5, 752億53百万円	(+ 23.0%)
輸出入差引額	1, 622億44百万円の入超	(増減比は前年比、以下同じ。)

2. 輸出

輸出総額は、4, 130億09百万円、伸び率+10.1%、金額にして379億58百万円の増加で、3年ぶりのプラスとなった。これは金属製品、セメントなどが不振であったものの、合成ゴム、鉄鋼などが好調だったことが主な要因となっている。

品目別動向では中国、アメリカ等向けの合成ゴムが143億86百万円の増加、中国、韓国等向けの鉄鋼が128億29百万円の増加、中国、韓国等向けの有機化合物が105億78百万円の増加、台湾、韓国等向けの無機化合物が48億95百万円の増加、中国、インド等向けのプラスチックが46億80百万円の増加となった。

一方、韓国、マレーシア等向けの金属製品が9億84百万円の減少、香港、シンガポール等向けのセメントが8億76百万円の減少となった。

《増加品目》	合成ゴム	386億05百万円	(143億86百万円増、+ 59.4%)
	鉄鋼	752億29百万円	(128億29百万円増、+ 20.6%)
	有機化合物	1, 423億46百万円	(105億78百万円増、+ 8.0%)
	無機化合物	366億93百万円	(48億95百万円増、+ 15.4%)
	プラスチック	378億77百万円	(46億80百万円増、+ 14.1%)
《減少品目》	金属製品	10億57百万円	(9億84百万円減、- 48.2%)
	セメント	25億85百万円	(8億76百万円減、- 25.3%)

3. 輸入

輸入総額は、5, 752億53百万円、伸び率+23.0%、金額にして1, 074億39万円の増加で2年ぶりのプラスとなった。これは機械類及び輸送用機器などが減少したものの、輸入品の約8割近くを占める鉱物性燃料の石油製品、原油及び粗油などが増加したことが主な要因となっている。

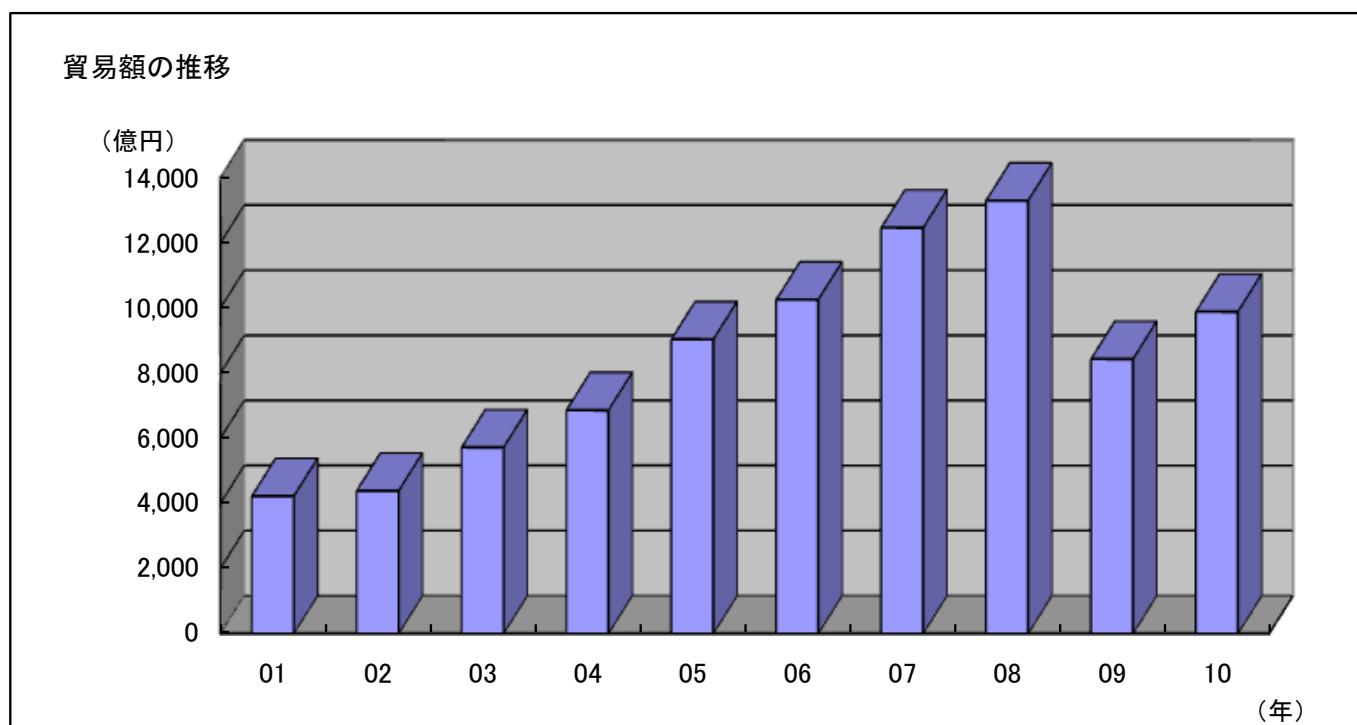
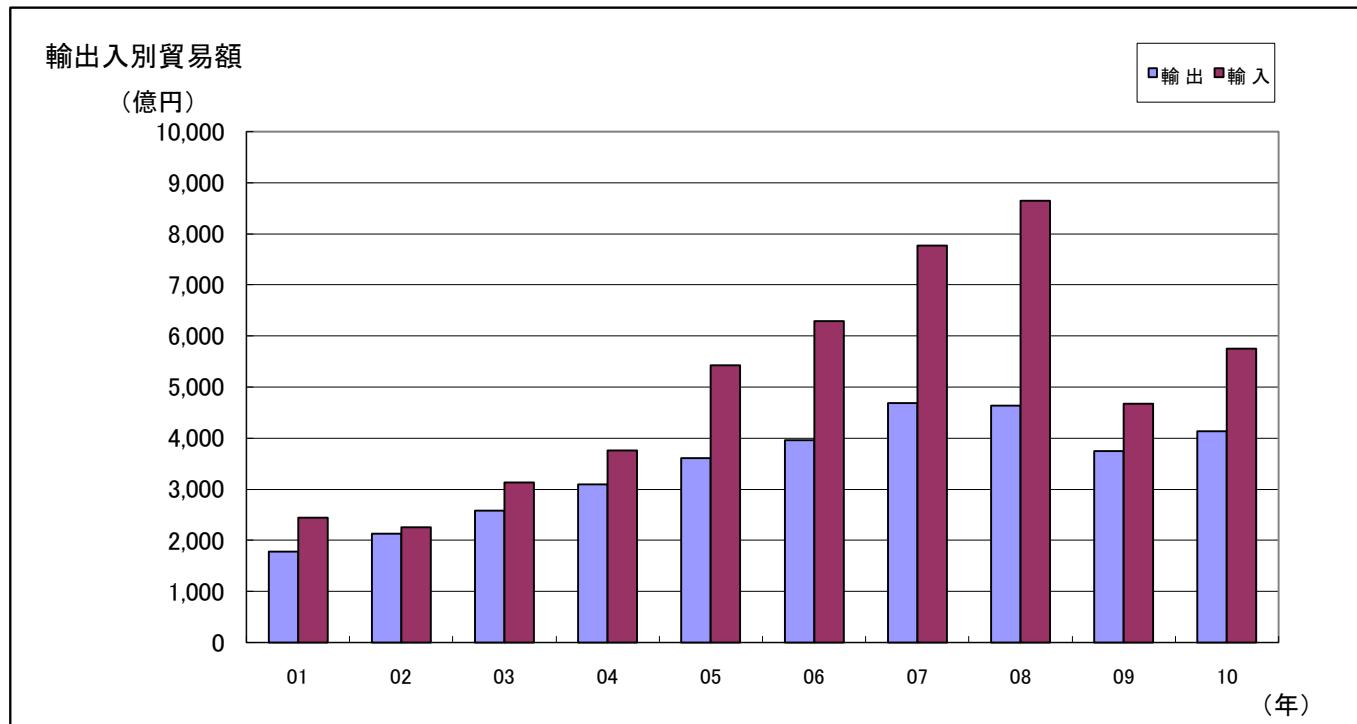
品目別動向では、韓国、サウジアラビア等からの石油製品が410億64百万円の増加、カタール、アラブ首長国連邦等からの原油及び粗油が235億94百万円の増加、南アフリカ、ニューカレドニア等からの鉄鋼が164億96百万円の増加、オーストラリア、インドネシア等からの石炭が61億60百万円の増加、韓国、アメリカ等からの鉄鋼くずが55億92百万円の増加となった。

一方、中国、台湾等からの機械類及び輸送用機器が14億17百万円の減少となった。

《増加品目》	石油製品	1, 249億61百万円	(410億64百万円増、+ 48.9%)
	原油及び粗油	2, 330億35百万円	(235億94百万円増、+ 11.3%)
	鉄鋼	457億67百万円	(164億96百万円増、+ 56.4%)
	石炭	681億57百万円	(61億60百万円増、+ 9.9%)
	鉄鋼くず	133億80百万円	(55億92百万円増、+ 71.8%)
《減少品目》	機械類及び輸送用機器	47億01百万円	(14億17百万円減、- 23.2%)

注. この内容を引用されるときは、徳山税関支署発表による旨附記してください。

年別 徳山・下松港貿易額推移グラフ



年	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10
輸出	1,775	2,129	2,578	3,096	3,610	3,965	4,690	4,642	3,751	4,130
輸入	2,441	2,251	3,134	3,759	5,425	6,288	7,772	8,652	4,678	5,753
合計	4,216	4,380	5,712	6,855	9,035	10,253	12,462	13,294	8,429	9,883